

Youth	B	C	D
試合時間	4分1R	3分1R	2分1R
グラウンドポジション	手や足以外の体の一部がキャンバスに接触している状態		
反則	○ユニファイドMMAルール、Sクラスルールにて規定されている反則に加え以下が反則となる○ ①頭部または顔面への打撃攻撃 ②膝による打撃攻撃 ③グラウンド状態での打撃 ④上腕二頭筋、ふくらはぎ潰し ⑤リストロック（手首固め） ⑥膝に負担を与える全ての関節技 ⑦スタンディングギロチンチョーク アームインしていないギロチンチョーク ⑧オモプラータ ⑨スープレックス 持ち上げての投げ ショルダーロー ジャンピングサブミッション ジャンピングガード 足関節への飛びつき（シザーステイクダウン） ⑩頭から落ちるテイクダウン ⑪膝関節へ直線的なキック （関節げり） ⑫グラウンド状態からの蹴り上げ （アップキック） ⑬フットスタンプ ⑭エレクトリックチェア （股裂き）（サブミッションとして） ⑮バナナスプリット （股裂き）（サブミッションとして）		
		i .全ての足関節技 ii .全てのギロチンチョーク iii .ボディースクイーズ（胴締め） iv .ティーピーチョーク	
補足	Bルールのみにおいて許可されている足関節技について、以下のみとする ・ ストレートアキレスロック ・ 足を真っ直ぐにした状態でのフィギュアフォーアングルロック Bルールにおいて許可されているギロチンチョークについて、以下のみとする ・ アームインタイプであり、グラウンドポジションでフィニッシュされなければならない 投げ技に関して ・ いかなる投げも腰投げ（ヒップトス）のバリエーションでなければならない。 かつ、頭と腕の両方をコントロールしていなければならない。		

アマチュアパンクラスSクラスルール反則

- (1) 頭突き (2) 目潰し (3) 噛み付く (4) 相手に唾を吐く (5) 髪を引っ張る (6) フィッシュフッキング (7) 股間へのあらゆる攻撃
- (8) 相手の体の開口部や傷口、裂傷部に指を入れる (9) 小さな関節（手足の指）を巧みに操る攻撃（small joint manipulation）
- (10) 肘や前腕部による打撃攻撃 (11) 頭部・顔面への膝による打撃攻撃
- (12) グラウンド状態の相手への踏みつけ（立位でのフットスタンプは合法） (13) 相手の顔や目に向けて広げた指を向ける行為
- (14) 喉へのあらゆる打撃、気管を掴む行為 (15) 皮膚を掴む、つまむ、ひねる
- (16) グラウンドポジションの選手に対する頭部・顔面への足による打撃攻撃 (17) フェンスや試合場を構成する部位を掴む
- (18) 相手のコスチュームやグローブを掴む (19) 試合場内で口汚い言葉を吐く
- (20) 相手の負傷の原因となるようなあらゆる非スポーツマン的行為
- (21) ブレイク中の相手への攻撃 (22) レフェリーのチェックを受けている最中の相手への攻撃
- (23) ラウンド終了の合図が鳴らされたあとでの相手への攻撃
- (24) 相手との接触を避けるあらゆる消極的な姿勢（意図的または継続してマウスピースを落としたり、怪我のふりをするなど）
- (25) 試合場外に相手を投げる
- (26) 審判員の指示を著しく無視する
- (27) 相手の頭や首をキャンバスに突き刺す（いわゆるスパイクング）
- (28) 相手の頸椎や脊椎に著しくストレスを与える行為（いわゆるツイスター、ネッククランク、キャンオープナー等）や肋骨圧迫行為
- (29) 膝関節を狙った直線蹴り
- (30) 競技場の状態により主催者の判断で頭から落ちるようなスラム、投げ技等を反則に規定することができる
- (31) ヒールフック
- (32) 審判員が塗布する以外の塗布物を塗布する行為
- (33) 試合前に審判員によるチェックを受けていないテーピングや競技用具の着用
- (34) 審判員に対する虚偽のアピール、言動
- (35) 試合用コスチューム、マウスピース、ファウルカップ等の競技用具を破損し、試合続行を不可能にする行為
- (36) 非紳士的行為
- (37) セCONDによる妨害

競技用具

体にフィットした半袖のラッシュガード

硬質な素材や、ポケットのない、紐が外側に出ていないショーツ

マウスピース（任意）

ファールカップ（プラスチック製、サポーター制も可）（女子下腹部ガード任意）

公認レッグガード

公認グローブ（貸出用あり、持参された選手はそちらを使用できます）

Youthレフェリングポリシー

・上記Youthルールは、若い競技者が、不必要な怪我や外傷のリスクなしに、競技形式で必要な時間と経験を積むことを許可し促進するものです。結果として、レフェリーは技術が自由かつ公然と使用され適用されることを許可するように指示されますが、必ずしもフィニッシュされるのを待つ必要はありません。言い換えれば、合法的なサブミッションホールドに捕らえられた若い競技者は、上級シニアが脱出を利用するために持つような同じ寛容さと時間は許可されません。これほど早い年齢では、若い選手への不必要な怪我を許可したり危険にさらしたりしないという「安全第一」の観点から、重点が強調されることを認識しなければなりません。その結果、「テクニカル・サブミッション（見込み一本）」は、試合を決定し終了させるためのより頻繁な出来事となります。また、反則に規定されていない行為であっても、レフェリーが若い競技者の身体的安全性が保たれないと判断した場合、時間を止める、その行為をやめるように指示する等の行動を起こすことは権限として許可されます。

出場選手・セコンド・関係者様

Youthルールでは、MMAの動きを妨げないため、最小限の装備品着用での試合となります。ルールを遵守し、反則行為が一切無いよう、自身並びに対戦相手に不必要な怪我を負わせないように、試合を行ってください。我々は、若い競技者達が、健全に、安全に、MMAのキャリアを積んでいけるよう努力していきます。よろしくお願いいたします。